

2021年  
第3回  
町田市議会  
定例会  
8.26~9.29

# “未来への投資”は子どもたちに 日本共産党 学校統廃合やめて少人数の教育ができる町田へ

共産党  
市議団提出

「全国一律の『盛り土』規制の法整備を  
求める意見書」が賛成多数で可決！

21年第3回定例会が行われました。小学校35人学級実施関連や中小企業者家賃補助第3弾などが盛り込まれた一般会計補正予算が、全会一致で可決しました。また、共産党が提出した「全国一律の『盛り土』規制の法整備を求める意見書」が賛成多数で可決、国に送付されました。共産党市議団は、新型コロナウイルス対策など市民の命とくらしを守る質問、提案を行いました。

統廃合中止を求める請願が  
連続して出される

8月に教育広報紙「まちだの教育 学校統廃合特別号」が全戸配布され、ご覧になった方が多いと思います。市民の方から「学校統廃合が決まったことのように書かれていてショック」災害時に、歩いていける避難所の学校がなくなるのは本当に心配」という声が届いています。さらに、まだ統廃合についての周知が不十分な中で、今年度から「町田第3小・本町田小・本町田東小」、「南第2小・南成瀬小」、「鶴川第2小・鶴川第3小」、「鶴川第3小・鶴川第4小」の統廃合に向けての話し合いが始まっています。

9月議会には、「町田市教育委員会の『町田市新たな学校づくり推進計画』について見直し



統廃合の対象校にされている本町田小学校

を求める請願」、「町田の市立学校をなくさないで！すべての小・中学校の存続を求める請願」とどちらも統廃合計画について異議を申し立てる請願が出されました。請願者からは、今年度から統廃合にむけての話し合いが始まっている本町田地域の保護者から「小規模の学校から1学年3クラス以上の学校になるのは子どもたちにとって負担だ」と意見が出ていると紹介されました。請願には、日本共産党市議団と他1名が賛成したものの不採択となりました。

統廃合をやめることで  
30人以下の学級が増える

田中美穂市議は一般質問で、学校統廃合をやめ、今の学校の数を維持することで、将来的に1学級あたりの人数が減り、30人以下の学級実現する学校が多数になるという点を指摘しました。町田市教育委員による学校統廃合説明会資料のQ&Aでは、「1学級あたり35人以下の少人数学級の実現を最優先にするべきではないか？」という質問に対し、町田市独自の実施は困難、少人数学級の実現に向けては、町田市からも東京都教育長会を通じて、全学年35人以下の学級編制の要望を東京都に出している、とあります。市独自で少人数学級はやれないというのなら、むしろ統廃合計画を中止して、実質的に30人以下学級を増やし、子どもたちに丁寧な教育を行うことを実施することが必要だと考えます。日本共産党市議団は、引き続き統廃合中止を求めて取り組みます。みなさんの声をお寄せください。

35人学級で  
不足教室増築へ

40年ぶりに小学校の学級編成基準が35人に改定されたことにより、町田市では2022年度以降に教室不足となる3校（南1小・町2小・町1小）を対象に、普通教室への転用工事や増築工事を実施する予算が9月補正に盛り込まれました。いま、国が少人数学級の必要性を認め、町田市は来年度から段階的に小学3年から6年生の35人学級を実施します。党市議団は、中学まで早急に進めることを求めています。



対象校	転用工事	普通教室数
町田第2小学校	転用工事	13→14
南第1小学校	転用工事	20→22
町田第1小学校	増築工事	25→29

町田1中、新校舎で  
新学期スタート

町田市立第一中学校校舎の改築工事が完了し、2学期から新校舎での授業が始まりました。内覧会では、空調設備LED照明、バリアフリー化のほか、地域との交流や災害時の避難施設機能を持ったホールを視察しました。普通教室には全室プロジェクトやWiFiが整備され、図書室の本棚や机はすべて木製で落ち着いた雰囲気でした。長い期間、プレハブ校舎で不自由な思いをした生徒たちが心待ちにした新校舎。日本共産党市議団は、雨もりなど老朽校舎の状況を調査し、早期建て替えを求めてきました。



町田第一中学校の新しい教室

## 市民に寄り添う 葬祭事業の存続を

町田市は、市民がお金の心配なく葬儀を営むための葬祭事業を廃止する条例を提案しました。民間事業者でも安価な葬儀が行えるようになったことが理由です。しかし、長年行われてきた市の葬祭事業は、葬儀の予算や内容など要望に親身に相談にのるなど利用者からの評価も高く、存続してほしいという市民からの請願が提出されました。審査した健康福祉常任委員会で、生花商組合や印刷業者など関連

業者への説明が直前まで行われていなかったことも明らかになりました。常任委員会はさらなる調査が必要と判断して、条例と請願は継続審査になりました。その後も市民からは、事業の継続を求める切実な声が届けられています。今後も市民に寄り添った葬祭事業の存続を求めて頑張ります。

